

私立大学情報教育協会
平成26年度
大学職員情報化研究講習会
基礎講習コース報告

B班1グループ

1

B班「チーム本州」の紹介

「チーム本州」とは、北海道・本州・四国・九州・沖縄など6,800以上の島から構成される島国 日本において、同じグループとなった7名の大学職員の勤め先大学が、天文学的確率でみな本州に位置することから、名付けられた仮称である。その他のお互いの共通点については、今後の交流によって見出し、チームの正式名称を決定したいという切実な願いがこめられている。

2

発表テーマ

学生の主体的な学習の “場”としての大学づくり

“場”・・・用意された空間を活用する機会

3

学生の主体的な学習の“場”としての大学づくり

テーマ選定理由(1) 大学の役割

私たちが考えた大学の役割

1. 人材育成
2. 地域社会への貢献
3. 研究活動、研究成果の発信

4

学生の主体的な学習の“場”としての大学づくり

テーマ選定理由(2) このテーマを選んだ理由

大学の役割に

・役割を果たすために、大学は何をしなければいけないのか

→ 社会に貢献できる人材を育成すること

↓
主体性、コミュニケーション能力のある人材

役割を果たすために、どのような取り組みが必要なのだろうか？

・主体的な学習を促すために

- ① “場”を設ける
- ② 職員と教員が協働する

5

“学生”の主体的な学習の“場”としての大学づくり

大学の現状

大学の現状はどうだろうか？

1. 主体的な学生が少ない
2. 教職員のサポート体制が確立していないため学生のモチベーションが下がる。
3. 学習するための“場”が少ない、“場”があっても上手く活用されていない

6

問題点の深堀

1. 主体的な学生が少ない
 - 予習復習をしない、質問しない、調べない、目的意識がない、意見交換に対する意欲が無い
2. 教職員のサポート体制が確立していないため学生のモチベーションが下がる。
 - 提出した課題に対するフィードバックがない
3. 学習するための“場”が少ない、“場”があっても上手く活用されていない
 - ↓
 - (課題について議論しながら学習する(PBLやLTD))

7

解決策の検討1

1. 大学としての取り組み
 - (1) 教員からの積極的な評価のフィードバック
 - (2) 学生の成長を見守る (「学生カルテ」)
 - (3) 学生が知る喜びを体験できる機会を増やす
 - (4) 学生ポータルサイトに「1,460」をカウントダウン
 - (5) 自分が何をしたのかを毎年振り返る機会
 - (6) 学内SNSを通して学生同士が刺激し合う
 - (7) 情報基礎力・倫理観の向上

8

解決策の検討2

2. 職員の役割
 - (1) 学生への対応に責任感をもつ(たらい回しにしない)
 - (2) 部署間の連携をしっかりと取って情報を共有する
 - (3) 学生の視点を理解する(学生に混ざって講義を受ける等)
 - (4) 一番身近な社会人として接する
 - (5) 参加型授業(PBL、LTD)の提案、実施のサポート

9

大学のイノベーションの提案

1. 学生の動機付けのためのシステムの構築
 - ・学生向けポータルサイト
 - ① 在学残り日数カウントダウン
 - ② 一年間の振り返り → 学内SNS等を通じて学生間で共有
 - ③ 授業の予習・復習教材のアップロード
 - ④ 職員への相談予約
2. 職員側のface-to-faceのサポート
 - ・意識改革(学生を育てる！)
 - ・授業や課題の内容を把握する
 - ・悩みの相談(メンタル面のサポート)

10